

令和元年度

事業報告書

(自) 平成31年4月1日

(至) 令和2年3月31日

社会福祉法人
琴浦町社会福祉協議会

概 要

「第2期琴浦町地域福祉活動計画」に基づき地域住民、福祉関係者等との連携・協働により、地域で安心して暮らし続けることができるまちをめざし、小地域ネットワークづくりの推進を図るため福祉委員・愛の輪協力員研修会を開催しました。研修会の内容を今日の福祉課題となっているひきこもりや災害時の避難体制など、日ごろの支え合い活動からの取組や啓発という内容としました。多くの参加者があり、防災について自治会や集落で取組みたいなど意識の向上や、関心の高さが見られる意見が多くありました。自治会や集落の支え合い活動が充実してきていることが研修会の意見や参加人数の増加で感じられます。

また、令和元年度は町民への福祉教育と啓発のための取り組みとして「福祉検定フェスティバル」、「福祉議会」を実施することで、福祉について考えるきっかけづくりとなりました。町民の互助、共助の啓発活動として、参加者からはよい学習機会となったなどの声もあり、誰にもやさしいまちづくりに向け効果が得られました。

ことうらあんしん相談支援センターでは町民の相談窓口として、専門職員が福祉事務所等関係機関と連携することで多機関の協働による包括的支援体制を構築し、複合的な課題を抱える世帯等へ、訪問活動など伴走支援や相談業務に取り組みました。

共同募金運動では、町共同募金委員会と協働して募金活動に取組み、集まった募金を地域の福祉活動の充実のため除雪機費用助成事業など新たな事業に取組んだことで、自分たちの自治会を見直すきっかけとなり、福祉座談会、支え愛マップ作成への取組みの意識が高まりました。

在宅福祉サービスの介護保険事業、介護予防事業、障がい者自立支援事業では、利用者の自立を図りながら利用者主体のサービスを提供しながら事業運営を行ってきました。

重点事業

1 町民の福祉に対する意識の高揚と啓発について

【評価と課題】

町民の福祉への意識を高めるため、広報紙、ケーブルテレビ、ホームページにより地域福祉の情報発信をするとともに、全町民対象にした福祉大会や体験を中心にした福祉検定フェスティバル、高等特別支援学校の生徒と福祉について議会形式での福祉議会を開催するなど町民へ福祉についての啓発に努めました。

また、福祉座談会については未実施の集落にアンケート文書を送付し、個別に連絡を取り開催の調整を行いました。除雪機購入費の申請要件に福祉座談会の実施としたことで今年度は9集落になりましたが、全集落の5割と依然少なく、引き続き各集落への働きかけを行い、住民主体の地域づくりを進めていきます。

2 町民の参加・参画による地域福祉活動の推進について

【評価と課題】

民生児童委員、福祉委員、愛の輪協力員の協力により小地域における見守り活動とふれ

あいいきサロン、支え愛マップづくり、町民のボランティア活動の活性化に取り組みました。

サロン開催の際には職員が出向き、集落の福祉活動や日ごろの生活課題について相談を受けました。

なお、集落の地域福祉活動であるサロン実施集落は、近年減少傾向にあり、全集落の14%しか取組んでおられません。理由にはサロン世話人の高齢化により申請・報告が煩雑なことや、町が進めている介護予防のためのサークルの増加などがあげられます。そこで新規立ち上げ支援とサロンが継続されるよう取り組み内容へのサポートを進めると同時に、地域福祉計画や地域福祉活動計画の中で整理・調整が必要と考えます。

また支え愛マップ作成は2集落でしたが、災害時だけでなく平常時においても身近な見守り体制の仕組みづくりとして、町防災担当などと連携し引き続き作成への支援に力をいれていきます。

3 こうらあんしん相談支援センターの機能の充実について

【評価と課題】

複合的な課題を抱える世帯等との信頼関係の構築に重点をおきながら、訪問活動を中心に、多岐にわたる課題の連絡調整や担当者会議等を関係機関と開催し、42件の世帯に対してひきこもりや就労、金銭問題などを伴走支援で解決に向けた働きかけを行ってきました。

平成28年度から委託で取組んできましたが、令和2年度は町が直営で取組まれるため、本会も協力をしながら利用者への支援を行っていきます。

また生計困難者に対する相談支援事業では一時的な経済的困窮者に対し、福祉事務所等と連携しフードサポートでの食料提供や金銭管理の日常生活自立支援事業などで生活再建に向けた支援として取り組みました。

また、社会福祉法人の公益的な取り組みでは、(福)立石会、(福)赤碕福祉会と協力して、定期的に「こども食堂」を実施し、参加者からの相談を受けました。毎月、法人連絡会を開催し社会福祉法人による公益的な取り組みについて検討を重ね、令和2年度には、2法人が各々でこども食堂の開設が決まりました。

なお、日常生活自立支援事業や法人後見援助事業では、利用者14名の権利擁護と意思決定を尊重するとともに利用者が安心して利用できるよう担当職員・生活支援員はスキルアップのための研修会の参加に努めました。

4 共同募金運動への支援と連携について

【評価と課題】

町共同募金委員会と連携し、赤い羽根共同募金、歳末たすけあい募金の運動に取り組みましたが募金額は減少しました。

令和元年度は募金を活用した新規事業として、「除雪機購入費助成事業」を募集したところ多くの反響がありました。助成決定集落からは、住民同士の支え合い意識の高まりを感じました。また「中学校入学祝い贈呈事業」も新規に取り組むなど、「小学校入学祝贈

呈事業」とともに、共同募金の仕組みや自分たちの町や将来に向けて考える機会としました。

引き続き、町共同募金委員会と連携して共同募金運動の啓発、推進に取り組みます。

1 法人運営事業

地域福祉事業を円滑に推進及び実施するため、会員を募集し会費の取りまとめを行いました。

また、理事会、評議員会等を開催し各事業の運営に取り組みました。

(1) 一般会員 4, 7 5 9 世帯(8 6. 3 %) 4, 2 4 9, 0 0 0 円

(2) 特別賛助会員 5 0 3 名 (個人・法人) 1, 1 0 7, 1 2 2 円

広報紙(8月号)に振り込み用紙を掲載し、郵便局での振込としました。

(30年度) 1, 0 7 4 名(個人・法人) 2, 1 3 7, 0 0 0 円

(3) 役員 理事 1 2 名 監事 2 名

(4) 評議員 1 3 名

(5) 理事会の開催(7回)

回数	開催日	人数	議 事
1	令和元年 5月27日	理事 11 名 監事 2 名 欠席理事 1 名	(1) 平成 30 年度事業報告について (2) 平成 30 年度事決算について 監査報告 (3) 令和元年度補正予算(第 1 号)について (4) 評議員選任候補者の推薦について (5) 経理規程の一部改正について (6) 総合相談所事業規程の一部改正について (7) 日常生活自立支援事業内部審査会規程の一部改正について (8) 評議員選任・解任委員会運営規程の一部改正について (9) 令和元年度第 1 回評議員会の開催について
2	令和元年 6月11日	理事 9 名 監事 2 名 欠席理事 3 名	(1) 琴浦町社会福祉協議会会長・副会長の選定について
3	令和元年 9月2日	理事 12 名 監事 2 名	協議事項 (1) 除雪機購入費助成事業について
4	令和元年 9月24日	理事 12 名 監事 2 名	協議事項 (1) 福祉情報カレンダーフォトコンテストについて
5	令和元年 11月8日	理事 12 名 監事 2 名	(1) 令和元年補正予算(第 2 号)について (2) 令和元年度第 2 回評議員会の開催について
6	令和 2 年 2月3日	理事 10 名 監事 1 名 欠席理事 2 名 欠席監事 1 名	(1) 評議員選任候補者の推薦について (2) 苦情処理第三者委員設置規程の一部改正につい (3) 積立金の組替について

7	令和2年 2月17日	理事 11名 監事 2名 欠席理事 1名	(1) 居宅介護支援事業の休止について (2) 放課後等デイサービス事業の廃止について (3) 定款の一部変更について (4) 資金貸付事業の町出資金の返還及び新規貸付の休止について (5) 総合相談所事業の休止について (6) 琴浦町社会福祉センター管理運営規程の一部改正について (7) 令和元年補正予算（第3号）について (8) 令和2年度事業計画（案）について (9) 令和2年度収支予算（案）について (10) 令和元年度第3回評議員会の開催について
---	---------------	----------------------------	---

(6) 評議員会の開催（3回）

回数	開催日	人数	議 事
1	令和元年 6月10日	評議員 10名 会長 副会長 監事 1名 欠席評議員 2名	(1) 平成30年度事業報告について (2) 平成30年度決算について 監査報告 (3) 令和元年度補正決算（第1号）について (4) 理事・監事の選任について (5) 経理規程の一部改正について (6) 総合相談所事業規程の一部改正について (7) 日常生活自立支援事業内部審査会規程の一部改正について (8) 評議員選任・解任委員会運営規程の一部改正について
2	令和元年 11月18日	評議員 11名 会長 副会長 欠席評議員 2名	(1) 令和元年度補正予算（第2号）について
3	令和2年 2月25日	評議員 12名 会長 副会長 欠席評議員 1名	(1) 理事の選任について (2) 苦情処理第三者委員会設置規程の一部改正について (3) 積立金の組替について (4) 居宅介護支援事業の休止について (5) 放課後等デイサービス事業の廃止について (6) 定款の一部変更について (7) 資金貸付事業の町出資金の返還及び新規貸付の休止について (8) 総合相談所事業の休止について (9) 琴浦町社会福祉センター管理運営規程の一部改正について (10) 令和元年度補正予算（第3号）について (11) 令和2年度事業計画（案）について (12) 令和2年度収支予算（案）について

(7) 監 査 (2回)

回数	開催日	人数	内 容
1	令和元年 5月20日	監事2名	平成30年度決算監査
2	令和元年 11月12日	監事2名	令和元年度定期監査

(8) 評議員選任・解任委員会 (2回)

回数	開催日	人数	内 容
1	令和元年 6月11日	出席委員 4名 欠席委員 1名	評議員の選任について (1名)
2	令和2年 2月10日	出席委員 5名	評議員の選任について (1名)

(9) 役員研修会 (2回)

回数	開催日	人数	内 容
1	令和元年 6月17日	出席 14名	地域福祉事業説明ほか
2	令和元年 9月24日	出席 12名 欠席2名	社協事業の現状について

(10) 評議員研修会 (1回)

回数	開催日	人数	内 容
1	令和元年 11月18日	出席11名 欠席2名	社協の現状について

(11) 苦情処理第三者委員会

開催日	人数	内 容
令和2年 3月24日	委員 5名 会長、副会長	1 苦情処理第三者委員会についての規程の説明 2 琴浦町社協に寄せられた苦情・事故等検討 平成31年4月～令和2年3月まで (1) 苦情について ・福祉サービスに関する事項 0件 ・一般事業に関する事項 0件 ・従業員に関する事項 3件 (2) 福祉サービス事故について ・利用者の人身 転倒 9件 ・利用者の物損 0件 ・利用者の経済的損害 0件

		・ひやり・ハット 3 件 ・その他 2 件 (3) 車両事故について
--	--	--

2 広報活動

(1) 社協だよりの発行

社協活動について、会員である町民の方に福祉の情報紙として、『社協の福祉だより』を発行し全戸に配布しました。発行回数を2回増とし、福祉・サービス情報のスピーディな情報提供に努めました。(6月・8月・10月・12月・1月・2月・4月 計7回発行)

「県内社協広報誌コンテスト 2019」において、2位(審査委員長賞)を受賞し、昨年に続き連続入賞しました。

(2) ケーブルテレビの活用

会費・募金の協力についてのお願い、相談日のお知らせ、社協事業・活動への参加の呼びかけ等を行い町民に広く周知を図りました。

(3) ホームページの運用

ホームページを運用し、いつでもどこでも福祉サービスの情報が閲覧でき、各種申請書等を取得できるよう利便性を図りました。

令和元年度 アクセス件数 17,525 件(1,460 件/月平均) (H30 年度 2,431 件/月平均)

(4) 福祉情報カレンダーの配布

福祉サービス等について、町民の方に広く知っていただくために、昨年に引き続き2020年福祉情報カレンダーを全戸に配布しました。また、カレンダーに掲載した絵画・写真については、町民の方や町内にお勤めの方から「えがお」を題材として募集し、町民の身近な作品としました。町民からは見やすい、使いやすいなど好評を得ました。

3 資金貸付事業

(1) 福祉資金貸付事業

① 新規貸付件数 2 件

② 償還完了数 4 件

③ 延滞件数(3月31日現在) 6 件 貸付残高 288,100円

(2) 生活福祉資金貸付事業(鳥取県社会福祉協議会事務委託)

① 新規貸付件数 4 件

※3月24日から新型コロナウイルス感染症に伴う緊急貸付開始

4 地域福祉推進事業

(1) ボランティアセンター事業

ボランティア登録 (24 団体 延 744 名 個人 61 名)

① ボランティアセンター推進委員会の開催(2 回)

② ボランティア活動者の募集について (広報紙・ホームページ等に掲載)

③ 琴浦町ボランティア交流会 (琴浦町ボランティアセンター)

期 日 令和元年 11 月 16 日

場 所 社会福祉センター 参加人数 32 名

(2) 福祉委員の設置 154 名

(3) 愛の輪協力員の設置 197 名(対象者 211 名)

(4) 福祉座談会の実施 9 集落で実施

期日	集落名	参加人数	期日	集落名	参加人数
R1. 9. 8	鋤	33	R1. 9. 16	三保	12
R1. 10. 26	立石区	11	R1. 11. 17	浦安 7 区	5
R1. 12. 15	上法万	16	R1. 12. 21	梅田	18
R1. 12. 22	下三本杉	18	R2. 1. 18	湯坂	31
R2. 2. 29	下光好	14			

福祉座談会実施集落 (推移)

	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
実施集落数	15	10	9	4	5	5

実施集落 78 集落 (令和元年度末) 50%

(5) わが町支え愛活動推進事業 (町・県補助事業) の取り組み推進

「災害福祉マップ」作成を支援し、集落内の災害時の防災意識と誰もが安心して暮らせる地域づくりを支援しました。

① 実施集落 2 集落 (花見、三保) 【目標 : 6 集落】

② ステップアップ事業 実施集落 なし

支え愛マップ作成

	H 2 5	H 2 6	H 2 7	H 2 8	H 2 9	H 3 0
作成集落数	7	1	1	2	3	2

作成集落 20 集落 (令和元年度末) 13%

(6) 琴浦町福祉大会

期 日 令和元年 10 月 19 日 (土)

場 所 カウベルホール

参加人数 213名

内 容 ① オープニング 琴の浦高等特別支援学校
② 講演 「誰も置き去りにされない社会を目指して」
現代教育行政研究会 代表 前川 喜平 氏

福祉大会参加者（推移）

	H26	H27	H28	H29	H30
参加者数	217	183	185	174	165

(7) 福祉委員・愛の輪協力員研修会

【第1回】

日 時 令和元年7月21日（日） 13:30～15:00

場 所 琴浦町社会福祉センター

参加人数 106名

内 容 講演 「ひきこもりを理解する」

講師 鳥取県中部福祉保健局 心と女性の相談担当 市橋 千重氏

【第2回】

日 時 令和2年1月26日（日） 13:30～15:00

場 所 琴浦町社会福祉センター

参加人数 151名

内 容 実践発表「支え愛マップづくりを通して支え合える地域へ」

発表者 花見区自治会 前区長 大谷 浩史氏

講演 コミュニティと地域の防災力」

講師 元鳥取県中部総合事務所長 岡村 俊作氏

(8) 夏休みボランティア活動体験事業

実施期間 令和元年8月1日～8月21日

対象者 5年生以上の小学生、中学生、高校生

受入先 保育園 7園 施設 11施設

参加人数 40名 (H30年度 51名)

(9) ふれあいいきいきサロンの実施 22集落

【目標：実施集落 33集落】

- ① 小地域において住民主導型で、会食やレクリエーション等を通じて交流を図るサロン活動を支援

助成金は開催1回につき1,000円、ただし参加者数15人以上は2,000円（下線の集落）

八橋4区	八橋5区	八橋6区	岩本	徳万	立石
逢束5区	金屋	三保	福永	矢下	別所
亀崎	港町	荒神町	仲ノ町	花見町	駅前通り
坂ノ上	下市	国実	古長		

いきいきサロン実施集落（推移）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
実施集落	27	25	27	29	27	25

ア、サロン実施集落にレクリエーション指導に職員派遣実施 6回/年

イ、サロン集落に訪問活動 10集落 / 22集落中

サロン運営について世話人参加者のようす、地域の支え合いについての相談などの聞き取りを行いました。

ウ、集落への職員派遣 敬老会ほか 5回/年

② ふれあいいきいきサロン世話人交流研修会の実施

日時 令和元年9月25日(水) 13:30～15:30

場所 琴浦町社会福祉センター

参加人数 14名

内容 ・活動紹介（各サロンより）
・新聞を使った、脳トレパズル、エコバッグ作り体験（日本海新聞社社員）
・ニュースポーツ体験（ボッチャ他）

③ 地域交流カフェ「あいカフェ」の開催

日時 6月12日(水) 9月11日(水) 12月18日(水) 10:30～11:30

場所 琴浦町老人福祉センター

参加人数 延約40名

運営 琴の浦高等特別支援学校3年生サービスコース、社協個人ボランティア
社協就労継続支援B型事業所、生活支援コーディネーター

内容 新わくわく琴浦体操、レクリエーション、喫茶コーナー、支援学校と就労B型事業所
による野菜や加工品販売

◇場所 琴浦町老人福祉センター1階

(10) 総合相談所の設置

① 心配ごと相談の実施

住民の多様化するニーズの方向付をするために心配ごと相談を実施しました。

	開設日数(日)	相談件数(件)	開設曜日
本 所	6	5	毎月第1水曜日
支 所	6	3	毎月第3木曜日

② 法律相談の実施

多様化する生活上の問題を解決するために、司法書士による法律相談を実施しました。

開設日数12日(月1回、本所)、相談件数36件

(11) 福祉団体助成事業 7団体 870,000円

団体名	助成金額(円)	団体名	助成金額(円)
高齢者クラブ連合会	350,000	民生児童委員協議会	400,000
手をつなぐ育成会	50,000	遺族連合会	10,000
身体障害者福祉協会	40,000	連合婦人会	10,000
東伯保護区保護司会	10,000		

(12) ボランティア団体助成事業 10団体 266,000円

団体名	助成金額(円)	団体名	助成金額(円)
菖蒲会	50,000	東伯赤十字奉仕団	80,000
ガールスカウト	23,000	赤碕赤十字奉仕団	30,000
ひとみの会(点字)	10,000	朗読サークルなごみ	20,000
手話サークルすずらん	10,000	朗読ボランティアしおさい	30,000
ひまわり手話サークル	8,000	傾聴ことの会	5,000

(13) さわやか福祉給食の実施

一人暮らし高齢者及び高齢者世帯で調理が困難な方の孤立感を解消することを目的として、毎週月曜日から金曜日の夕方にボランティアによる調理・配送のふれあい型給食活動を展開しました。なお、9月からは民間による弁当の配達事業者もあることから対象者を非課税者のみとしました。

配食数 4,236食 (実利用者 63名)

調理ボランティア 165名 配送ボランティア 43名

(14) ことうら福祉検定フェスティバルの開催

日 時：令和元年11月30日(土) 参加者 35名

内 容：①福祉体験(手話、車いす、アイマスク)

②検定試験(クイズ形式)

③ユニバーサルデザインの展示

参加賞協力事業所 18社

(15) 福祉議会の実施

日 時：令和元年 11 月 25 日（月） 社会福祉センター

参加者：琴の浦高等特別支援学校 2 年生 4 名、教員 2 名、社協役員 8 名

内 容：福祉に関する意見交換

5 日常生活自立支援事業

日常生活に不安をかかえている高齢者や障がいのある方を対象に、預貯金の出し入れ、福祉サービスの利用援助、書類の預かり等を行いました。

・利用人数 11 名（年間利用者数 12 名） 延べ支援回数 185 回

・生活支援員 7 名

◆契約締結内部審査会 毎月 1 回実施

6 成年後見支援事業

認知症、障がいのある方に成年後見制度に基づき、生活上の法律行為と身上監護、財産管理を行いました。

・被後見人 1 名（死亡により 6/11 終了）

・被保佐人 2 名

7 フードサポート事業

生活が困窮されている方へ食材や食品を提供し、生活の一助とし自立を支援しました。

・登録数 企業・商店 12 社、個人 6 人

・利用件数 8 件（H30 年度 8 件）

8 多機関の協働による包括的相談支援体制構築事業

「ことうらあんしん相談支援センター」を設置し、単独の相談機関では十分に対応できない、複合的な課題を抱える者等に対し、多機関の協力を得て総合的な相談に応じ相談支援に取り組みました。

	主な活動	内 容
1	基盤の整備	推進会議の開催（2 回）
2	構築事業の P R	各種委員会、座談会、広報紙等において P R チラシの配布や P R 映像の視聴により事業の周知と情報提供を図りました。
3	課題の把握	課題を抱える世帯等へ訪問し聞き取り等を行いました。ひきこもり（未就労）世帯を中心に相談支援を行いました。
4	ネットワークの構築	福祉事務所、地域包括支援センター、民生児童委員協議会、学校、教育委員会、公共職業安定所、相談支援事業所等から複合的な課題を抱える世帯等の情報提供により協働してチームアプローチによる支援を行いました。
5	会議の開催	担当者会議（ケース会議）の開催（10 回）（H30 年度 7 回）
6	年間相談件数	42 名（H30 年度 32 名）

9 えんくり事業

(1) こども食堂の実施

立石会、赤碕福祉会とボランティアの協力を得ながら、こども食堂を実施し、食事支援や居場所づくりを提供しました。毎月1回実施（4月～2月）

参加人数 33名／回 延人数 358人

(2) 生計困難者に対する相談支援と経済的援助

生計困難者へ現物給付により生活再建への支援を行いました。

- ・経済的援助者 1名

10 ふれあいと生きがい創造事業

生きがいと創造の事業（4教室）

高齢者の生きがいづくりの一環として各種教室の活動を支援しました。

教室名	開催回数(回)	参加延人数(名)	場 所
竹細工教室	47	386	本所 いこいの家
陶芸教室	48	334	本所 いこいの家
ちぎり絵教室	11	72	社会福祉センター
囲碁教室	2	9	本所 娛樂室

11 共同募金配分金事業の実施

(1) 福祉教育の推進

- ① 町内の小中学校、琴の浦高等特別支援学校、保育園・こども園を福祉教育推進校（園）に指定し、幼児期から福祉の心の育成や福祉事業への参加を促しました。

- ・中学校2校 ・小学校5校 ・高等特別支援学校1校 ・保育園1園

中学校・特別支援学校助成金 3校 175,000円

学校名	生徒数(名)	助成金額(円)
東伯中学校	254	83,000
赤碕中学校	168	62,000
琴の浦高等特別支援学校	113	30,000

小学校助成金 5校 309,000円

学校名	児童数(名)	助成金額(円)
八橋小学校	191	60,000
浦安小学校	214	73,000
聖郷小学校	121	50,000
赤碕小学校	215	73,000
船上小学校	135	53,000

こども園、保育園助成金 保育園 1 園 20,000 円

園名	園児数(名)	助成金額(円)
みどり保育園	93	20,000

② 福祉体験学習出前講座の実施（5回）

小中学校の総合的な学習時間「福祉の町づくり」の授業で、福祉体験（車いす、アイマスク
高齢者疑似体験）を実施し体験のなかから気づき、福祉の心を育てることを支援しました。
またPTAの人権学習として車いす、アイマスク体験を実施しました。

実施日	学校名	参加者数	内 容
7月11日	赤碕中学校	1年生 12人	・福祉学習サポーターの講話（藤村実千子さん） 「高齢者の人権」 ・車いす、アイマスク体験
10月25日	八橋小学校 3年生保護者	保護者 15人	・車いす、アイマスク体験
11月26日	浦安小学校	3年生 32人	・福祉学習サポーターの講話（松田洋子さん） 「福祉について学ぼう」 ・車いす、アイマスク体験
12月4日	八橋小学校	4年生 38人	・福祉学習サポーターの講話（森田澄恵さん） 「福祉について」 ・車いす体験、アイマスク体験
2月25日	浦安小学校	3年生 35人	・11/26 福祉体験学習を終え、社協デイサービス 利用者と交流（昔遊び、ゲームほか）

福祉体験学習出前講座実施（推移）

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
講座実績数	9	4	6	4	5	6

(2) 小学校入学祝い品贈呈事業

入学児童 125名

祝 い 品 クレパス（16色）・連絡袋

学 校 名	児童数(名)	学 校 名	児童数(名)
八橋小学校	29	赤碕小学校	35
浦安小学校	31	船上小学校	16
聖郷小学校	14		

1 2 歳末たすけあい運動の実施

地域歳末たすけあい配分

区 分		配 分 内 容
歳 末 配 分	準要保護者支援	準要保護者へ商品券を交付 720,000 円 5,000 円×144 名
	除雪機購入助成事業	除雪機購入費を助成 対象集落：保 1 区 900,000 円
	中学校入学祝い品贈呈事業	中学校入学生徒へデザインセットを贈呈 345,000 円 対象者 150 名
	事務費	配分にかかる経費（郵券代、消耗品費） 56,320 円
広報費		歳末たすけあい運動広報費 101,623 円

1 3 福祉センターの運営

(1) 町内外の各種の会合、趣味活動の場に福祉センターを提供しました。

	社会福祉センター		老人福祉センター	
	利用回数	利用人数	利用回数	利用人数
ボランティア関係	9 6 回	1, 2 5 5 名	3 9 回	3 3 2 名
福祉団体活動	7 3 回	1, 1 6 1 名	ヘルストロン使用者 1, 1 4 7 名	
趣味活動	3 5 2 回	4, 8 1 5 名		
その他	5 2 回	7 1 4 名		
ヘルストロン利用		5 9 名		
合 計	5 7 3 回	8, 0 0 4 名		

(2) 町民の健康増進及び交流を目的にふれあい交流広場を提供しました。

利用回数(回)	利用人数(名)
9 9 回	1, 7 8 9 名

1 4 誕生祝い贈呈事業

新生児誕生のお祝いと子育て支援を目的に紙オムツを贈呈しました。

新生児数 1 0 5 名 (H30 年度 117 名)

1 5 慰霊事業

① 亡くなられた方に弔花の敬供を行いました。 2 2 5 件 (H30 年度 244 件)

② 祭壇の貸出 6 件 (H30 年度 9 件)

16 貸出事業 () は貸出件数

① イベント用器具の貸出(集落の行事、保育園の行事ほか)

綿菓子機 2 台 (15 回)	ポップコーン機 2 台 (27 回)	かき氷機 1 台 (8 回)
--------------------	-----------------------	-------------------

② レクリエーション用具の貸出(いきいきサロン、保育園の行事ほか)

グラウンドゴルフ (室外、室内) (25 回)	ペタンク (室外・室内) (5 回)	輪投げ (20 回)	スカット ボール (15 回)	ナンバーズ ストライク (13 回)	ボッチャ (室内) (9 回)
----------------------------	-----------------------	---------------	-----------------------	--------------------------	-----------------------

③ 福祉用具の貸出

車椅子の貸出 40 件 (H30 年度 36 件)

④ マイクロバス (2 台) の運行管理

	ふれあい号 (本所管理)	はるかぜ号 (赤碕支所管理)
運行回数	108 回 (H30 年度 116 回)	72 回 (H30 年度 69 回)
利用団体	1 社協 4 回	1 社協 12 回
	2 高齢者クラブ 11 回	2 高齢者クラブ 7 回
	3 町関係 6 回	3 町関係 3 回
	4 学校関係 19 回	4 学校関係 11 回
	5 保育園、こども園 5 回	5 保育園、こども園 3 回
	6 集落 35 回	6 集落 8 回
	7 その他 28 回	7 その他 28 回
	(ボランティア、団体他)	(ボランティア、団体他)

5 介護保険事業の健全経営について

【評価と課題】

居宅介護支援事業は職員 2 名体制で事業を実施してきました。12 月末で 1 名の職員の退職、また年度末で 1 名の退職となり事業継続について検討をしましたが、現在の経営状況では職員確保が整わないため、やむなく利用者を他事業所へ引継ぎ、そのため当初予算より 320 万円の収入の減となり、収支差額も約 200 万円の赤字となりました。令和 2 年度は事業休止としました。

通所介護事業は年末年始を除く月曜から土曜まで利用者の支援と家族の介護負担の軽減に取り組んできました。利用者は目標としていた定員 35 名/日に対し平均 23 名/日と少なく、稼働率 7 割弱であり、一時預かり・入所・入院施設がないため新規利用者よりも辞められる利用者数が上回り、全体の利用者数は毎年減少しています。

また、当事業所を利用される方の介護度は、軽度の方が全体の 6 割を占めることもあり、当初予算より 400 万円の収入の減でした。今年度の資金収支の黒字は、事業所の正規職員割合が 2 割と低く、産休育休職員により人件費割合が減少したことが原因です。

1 介護保険事業

() は平成 30 年度利用実績

事業名	事業内容	項目	利用実績
居宅介護支援事業	介護認定を受けた方が在宅生活を継続していくために、適切なサービスや介護を利用することを目的として、ケアプラン等の管理を行ないました。 【目標：管理件数 70 件/月】 R2.4.1 から休止	1 ケアプラン管理 件数(月単位) 2 ケアプラン延管理 件数	47 件 (78 件) 560 件 (931 件)
通所介護事業	利用者の生活の自立の確保と、介護者の負担軽減などを目的として入浴、給食、生活指導などのサービスを提供しました。 また、季節を感じ、日常とは違う雰囲気を味わうために、外出や外食に出かけました。 【目標：利用者 35 名/日】 開所日数：309 日	1 利用者数 2 延利用者数	66 名 介護 44 名 支援 22 名 (73 名) (介護 50 名) (支援 23 名) 7,201 名 介護 6,076 名 支援 1,125 名 (7,854 名) (介護 5,918 名) (支援 1,936 名)

2 介護予防委託事業

() は平成 30 年度利用実績

事業名	事業内容	項目	利用実績
介護予防教室はればれ	毎週 1 回、物忘れ予防、レクリエーション活動、転倒予防活動を提供しました。 開催日数：98 日	1 利用者数 2 延利用者数	36 名 (39 名) 1,103 名 (1,167 名)
介護予防教室いきがい	隔週で、物忘れ予防、レクリエーション活動、転倒予防活動を提供しました。 開催日数：24 日	1 利用者数 2 延利用者数	16 名 (17 名) 290 名 (317 名)
要介護認定調査	利用者宅を訪問し、身体等の状態を調査項目に沿って適正に調査を行いました。 R2.4.1 から休止 (居宅介護支援事業)	1 調査件数	31 件 (75 名)

介護ボランティア事業	40歳以上の方が介護施設等でボランティア活動を行うことで介護予防につながります。	1 登録者数	30名 (29名)
	登録申請書等や研修会の開催、ボランティアの受入施設との連絡調整などを行いました。	2 延活動者数	404名 (414名)

6 障がい自立支援事業の健全経営について

【評価と課題】

平成30年度に事業開始した放課後等デイサービス事業は、事業再開にあたり有資格者の職員体制が確保できず令和元年度末をもって事業廃止としました。

生活介護事業は、新規の利用者が町外の方を含め2名増もありましたが、毎日利用の4名が施設入所や長期入院された事により稼働率は8割に留まり、収入も当初予算より200万円少なくなりました。正規職員割合3割の中、30年度末で1名の退職があり人件費の減により資金収支の黒字額が増となっています。

利用者ニーズに沿った支援を行い「利用したくなる事業所」を目指し新規利用者の獲得と稼働率アップに繋げる必要があります。

就労継続支援B型事業は、昨年度に続き新卒1名と中途から2名の新規利用者があり延べ利用者数は増えましたが、3名の退所や体調不良等での休みがあり稼働率は7割でした。正規職員割合2割と職員異動に伴う人件費の減により資金収支の黒字額が増となっています。

なお、利用者工賃については、新たな仕事の受注や見込んでいた施設外就労などが増えず、平均工賃は月額10,156円と目標額であった15,000円には達成しませんでした。施設外就労や社会交流を継続しながら工賃向上に向け新規の受注や開拓に力を入れていく必要があります。

1 障がい者自立支援事業

() は平成30年度利用実績

事業名	事業内容	項目	利用実績
生活介護事業	常に介護が必要な障がいのある人に、日中活動の場を提供し入浴・排せつ・食事の介護や機能訓練、創作活動、生産活動を通じた自立支援に努め、かつ、年間行事を通じて社会参加を行ないました。 【目標：利用者 20名/日】 開所日数：241日	1 利用者数	20名 (20名)
		2 延利用者数	3,873名 (4,013名)

就労継続支援 B型事業	一般企業での就労が困難な障がいのある人に、働く場を提供するとともに、就労に必要な知識及び能力の向上のための支援に努め、かつ、年間行事を通じて社会参加を行ないました。 【目標：利用者 20名/日】 開所日数：244日	1 利用者数 2 延利用者数	16名 (16名) 3,321名 (3,016名)
放課後等デイ サービス事業	心身の発達に障がいのある就学児の通所事業を平成30年度に開始しましたが、有資格の職員確保ができないため、令和元年度末をもって廃止としました。	1 利用者数 2 延利用者数	0名 (13名) 0名 (1,027名)
相談支援事業	障がいのある人やご家族等との相談や本人のサービス等利用計画の作成、モニタリングを実施し、関係機関との連携を図り在宅生活の支援を行ないました。	1 契約者数	107件 (119件)

2 地域生活支援事業

() は平成30年度利用実績

日中一時支援 事業	障がい者等の日中活動の場を提供し、家族の就労支援及び日常的に介護をしている家族の一時的な休息を図るための支援を行ないました。 【定員：10名/日】 開所日数：287日 (放課後等デイサービス休止に伴い)	1 利用者数 2 延利用者数	17名 (17名) 1,729名 (363名)
--------------	---	------------------------------	---